

頌 栄

No. 108

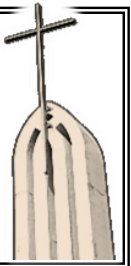
日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



キリストは雲に乗って来られる

牧師 清弘 剛生

今年は11月28日からアド

ベントに入ります。「アドベント」という呼び名は、「到来」を意味するラテン語に由来します。これはイスラエルの民がキリストの到来を待ち望んだことを思う時であると同時に、世の終わりにおけるキリストの到来(再臨)を思う時でもあります。

キリストの再臨については、主御自身がこのように語っておられます。

「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ると、このようにことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近い

からだ」(27・28節)。

「そのとき」とは、人間の目には破局としか見えない世の終わりの時です。しかし、人の望みが断たれたところにおいて、神の救いが向こうからやってくるのです。「人の子が：雲に乗って来るのを、人々は見る」とはそういうことです。

ここに書かれている「人の子」とは、再び来られるキリストです。解放し救ってくださる御方、大いなる力と栄光を帯びた方は「雲に乗って来る」と書かれています。この表現は旧約聖書のダニエル書から来ています(ダニエル7:13)。「雲に乗って」とは、要するに人間が普通考えるような仕方

では来ないということ。予期せぬ時に、予期せぬところから、予期せぬ仕方では来るとは、予期せぬこと。予期せぬこと。

そう言われて見れば、最終的な救いの話に限らず、聖書に書かれている物語は、そのような話ばかりではありませんか。予期せぬ時に、予期せぬところから、予期せぬ仕方では来るとは、予期せぬこと。予期せぬこと。予期せぬこと。

ならば、世の終わりについてだけでなく、そこに向かっている私たちの日常においても、私たちの目に映ることによって、未来を推し量ってはならないのでしよう。今目にしていることによって、未来の望みを奪われ、不安と恐れに支配されてはならないのです。私たちは忍耐して待ち望むのです。キリストは雲に乗って来られるからです。